

2022(令和4)年度2回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会 議事録

■開催日時 2022(令和4)年11月18日(金)
午後1時30分～午後3時24分

■開催場所 伊賀市役所 2階 第202・203会議室

■出席者 (敬称略)

【委員】

辻本 勝久(和歌山大学)、大森 秀俊(伊賀市副市長)、
宮原 宏規(西日本旅客鉄道株)、松永 昌幸(近畿日本鉄道株)、
増田 政俊(伊賀鉄道株 代理 津秦 充)、
平岡 祐一(三重交通株 代理 作田 久)、
尾上 義文(三重交通労働組合)、
勝山 祐樹(中部運輸局交通政策部交通企画課)、
鈴木 博行(中部運輸局三重運輸支局)、
山村 典史(名張警察署交通課)、
羽田 綾乃(三重県地域連携部交通政策課 代理 黒川 裕司)、
松本 匡史(三重県伊賀建設事務所)、西出 健一郎(市民公募)、
番條 克治(布引地域住民自治協議会)、
藤山 善之(伊賀市企画振興部長)

【オブザーバー】

小中 太(中部運輸局鉄道部計画課)

【事務局】

企画振興部 福岡次長
交通政策課 服部、坂森、中川

■傍聴人：7人

■会議概要

1. 開会

企画振興部 福岡次長

会長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。
皆さんご存知のとおり、持続可能な活動目標SDGsがございます。その目標

の11番目が、「住み続けられるまちづくりを」となっています。そのターゲットの2つ目に、公共交通機関のことが掲げられており、具体的には、すべての人々に安全かつ安価で容易に利用できる持続可能な移送システムへのアクセスを提供すると明確に書かれています。当協議会においても、すべての人々にとって利用しやすい公共交通体系の実現に向けて、しっかり取り組んで行くことで、持続可能な地域づくりに貢献して行きたいと考えていますので、積極的なご議論への参加をお願いいたします。

・委員、事務局 自己紹介

2. 協議事項

(1) 規約の改正について

事務局から資料1に基づき説明。

【質疑応答】なし

【承認】

(2) いがまち及び大山田行政サービス巡回車へのフリー乗降制度の導入について

事務局から資料2に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|-----|--|
| 委員 | フリー乗降はいつから開始するのか。 |
| 事務局 | できるだけ早く開始してほしいという声をいただいているため、来年の2月1日から開始する予定で考えています。 |
| 委員 | 周知方法はどのようにするのか。広報いが市で知らせるのか。 |
| 事務局 | 広報いが市以外に、関係する地域へのチラシの回覧を考えています。 |
| 委員 | 行政バスの利用者に対して民生委員から周知してもらった方が伝わるのではないか。 |
| 事務局 | ご意見ありがとうございます。各家庭へのチラシの回覧と併せまして、民生委員さんへも相談したいと思います。 |

【承認】

(3) 新たな運行形態の導入検討について

事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|-----|--|
| 委員 | 島ヶ原地区で実証運行をすることは良いことだと思う。様々な運行形態があると思うが、どのような運行形態を考えているのか。 |
| 事務局 | 運行形態につきましては、これから地域の住民自治協議会や関係機関と話し合いを重ね、地域の実情にあった運行形態を決めていきたいと考えています。 |
| 委員 | いつから実証運行は開始するのか。 |
| 事務局 | できるだけ早く開始したいと考えていますが、来年度中、令和5年度中の運行開始を目指しています。 |
| 委員 | 島ヶ原行政サービス巡回車は、高齢者の方々の買い物支援が主な目的だと思います。地理的に詳しくないが、島ヶ原の行政サービス巡回車に乗った方は、上野地区へ買い物に行く際、行政サービス巡回車を降りてからどういう交通手段で買い物に行かれるのか。 |
| 事務局 | 島ヶ原行政サービス巡回車は、上野地区まで行っておらず、島ヶ原の地区内を走っています。島ヶ原の方が上野方面へ行く場合は、行政サービス巡回車は島ヶ原駅に停まりますので、島ヶ原駅でJR関西本線に乗り継いでいただくか、三重交通さんが運行するバスに乗り継いでいただき、買い物や病院に行かれています。 |
| 委員 | 新しい運行形態の導入の際には、鉄道等への乗り継ぎにも配慮願いたい。 |
| 委員 | 三重県から案内させていただく。県では、令和2年度から高齢者等に対する移動手段の確保に関しての新しい取り組みに補助金を交付する事業を実施している。来年度もこの補助事業を実施する予定なので、具体的に実証実験の内容が決まってきましたら、県の方へ相談いただければと思う。 |
| 事務局 | ありがとうございます。是非、ご相談させていただきます。 |

【承認】

(4) 廃止代替バスに係る運賃改定について

事務局から資料4に基づき説明。

三重交通株式会社から補足説明。

平素は、弊社の乗合バス事業に多大なるご理解とご支援を賜りありがとうございます。弊社では、来年、令和5年3月1日に運賃の見直しを計画して

おります。この地域におきましても、少子高齢化が進んでおり、団地の空白化の状況も多々見られます。駅前周辺のコインパーキングの値段を見ましても、数年前までは最大500円であったものが、今や名張管内でも最大200円というところが増えていきます。自家用車を所有するものの今までバスに乗っていた方が、バスに乗るよりも自家用車で最大200円のパーキングを利用した方がガソリン等を考えても良いということで、バスに乗らない方が増えてまいりました。弊社としましては、ICの導入や安全管理、不足する乗務員の確保、この辺のところに費用がかかり、支出の圧縮等を行ってきましたが、非常に厳しい状況になってきています。何卒、ご理解を賜りたいと存じます。

【質疑応答】なし

【承認】

(5) 伊賀鉄道に係る生活交通改善事業計画（案）について
事務局から資料5に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|-------------|----------------------------------|
| 委員 | この計画は10年間となっているが、いつからの計画か。 |
| 事務局 | 公有民営化された平成29年度から令和8年度までの計画です。 |
| 委員 | 令和8年度以降はどうするのか。国の補助はなくなるのか。 |
| 中部運輸局鉄道部計画課 | 計画期間が過ぎて、すぐにすべての補助がなくなるということはない。 |

【承認】

3. 報告事項

○コミュニティバス「にんまる」停留所名の変更について
事務局から資料6に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|--------------|--|
| 委員 | 停留所名の変更は良いが、新しい岡波病院への交通手段はどうなっているのか。わかる範囲で教えてほしい。 |
| 委員 (三重交通) | 路線バス上野名張線が新しい岡波病院の下の県道を走っている。岡波病院さんと相談し、その路線を新しい岡波病院に乗り入れできるように計画している。許可等の関係でまだ公表できる状況ではないため、無事許可がありましたら公表させ |

| | |
|--|--------|
| | ていただく。 |
|--|--------|

○通学定期券購入費の助成について
事務局から資料7に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|-----|--|
| 委員 | 4月に入学されて半年定期券を買っていると、10月に次の半年定期券を買うことになると思うが、10月に買った定期券は、対象となるのか。 |
| 事務局 | 対象となります。 |
| 委員 | この制度は、中学3年生、新高校1年生へも周知しているのか。 |
| 事務局 | 今回の制度は、国のコロナ関係交付金の財源を基にしていますので、次年度以降、引き続いて事業ができるものではございません。今年度限りの事業としてご理解いただきたいと思っております。対象者につきましては、現在、12月から3月の間で公共交通機関を利用して通われている高校生や大学生、専門学生を想定しております。数は少ないと思っておりますが、中学生で公共交通機関を利用して通われている方も、対象となります。 |
| 委員 | 伊賀地域の高校へ通う方が、かなり減ってきている。次年度以降もこういった制度を続けていただければ有難い。 |
| 委員 | 10月1日に6カ月定期券を買った場合は、対象ということであるが、申請に何か証明は必要か。 |
| 事務局 | 申請書へは、定期券のコピー等の添付を想定しています。対象期間は、12月から3月で、これから周知して募集しますので、申請書には、現在利用されている定期券か、これから購入される定期券のコピーを付けていただくこととなります。 |

○三重県から報告事項

・JR関西本線について

三重県地域連携部交通政策課から当日配布資料（関西本線の利用促進）に基づき説明。

【質疑応答】

| | |
|----|---|
| 委員 | JR関西本線に関連し、国が中心となって沿線自治体や鉄道事業者を含めた新しい協議会を創り、3年以内には結論を出し |
|----|---|

| | |
|-------------------------|--|
| | ていく必要があるという路線に、この関西本線がなっていると思う。今後、この協議会をどのような形で進めて行くのか、国の方にお聞きしたい。 |
| 委員 (中部運輸局交通政策部交通企画課) | おっしゃっていただいた国が中心となる協議会は、ある一定の条件を満たす場合、国が中心となり協議会を立ち上げることになっている。まずは、地元が中心となって鉄道や公共交通の在り方等を話し合っていたいただくのが原則で、そちらの話し合いがうまく行かない場合で、ある一定の条件を満たすとなる場合は、国が中心となって協議会を立ち上げることになる。国が中心となる協議会の関係については、今まさしく支援制度の設計をしているところである。関西本線については、三重県さんが現在熱心に取り組んでいただいているので、そちらに国から助言や財政的支援等ができればと思う。また、支援の詳しい内容が決まりましたら沿線自治体へお知らせする。 |
| 委員 | 関西本線で、通勤や通学するとなると定時性が非常に大切。しかし、関西本線は、動物との接触や悪天候の影響で頻繁に運行時間に遅れが生じていると聞いている。今朝も濃霧で遅れたということである。そのような遅れに対してどのような対策をしているのか。 |
| 委員 (JR西日本) | 動物への対策については、鹿は鉄分を摂取するために山から下りてくるということを聞いているので、鉄分を別のところへ捲いて鹿が線路に近づかないようにしているが、うまく行っていない。また、ライオンの糞を鹿は嫌うと聞いたため、ライオンの糞を別のところへ捲いたが、こちらもうまく行っていない。今朝も鹿2頭が車両に飛び込んだ、何か良い対策があれば教えていただきたい。 |
| 委員 | 関西本線の利用促進のためには、乗りやすい環境を整えることが大切。利用促進の取り組みを行う前に、駅舎のバリアフリーの問題がある。高齢者は、跨線橋の階段を歩くのが大変。その跨線橋を市道認定して、市がバリアフリーに取り組んでいただきたい。草津線の駅は滋賀県や沿線自治体が力を入れていると聞いている。 |
| 委員 | 駅舎のバリアフリーに関しては、エレベーターの設置が考えられる。しかし、設置には数億円という経費がかかり、国の補助金もある一定の乗降者数がないと貰えない。伊賀市の様な小さい市では跨線橋の改修等は、難しい状況である。駅舎のバリアフリーについては、何か良い方法を考えて行きたい |

| | |
|---------------|--|
| | とと思っている。 |
| 委員 | 跨線橋を渡らなくてもいいように、常に車両がプラットホームのある方に停まるようにできないのか。他の小さい私鉄でもやっていると思う。伊賀上野駅でも上りと下りで車両の交換をしない場合は、駅舎のある方に車両を停めることができるのではないか。 |
| 委員 (JR西日本) | 伊賀上野駅は、4番線まであり、一番駅舎側が1番線の伊賀鉄道で、上りが2番線で、折り返しの下り線の車両は、3番線と4番線しか入れないことになっており、下り線の車両を1番線に停めることはできない。やろうとすると線路の改修や設備を整える必要があるので、大変なことになる。 |

・リニア中央新幹線について

三重県地域連携部交通政策課から 当日配布資料（リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会提案 駅候補地概略位置図） に基づき説明。

【質疑応答】なし

4. その他

・その他意見等

| | |
|-----|---|
| 委員 | 関西本線の利用促進の取り組みに併せて、民間の路線バスの利用促進の取り組みもやっていただきたい。国の補助金の性質上、幹線である民間の路線バスの平均乗車密度がある一定の基準を下回ると将来的に補助金が出せなくなり、民間の路線バスに付いているフィーダー系統のバスにも補助金が出せなくなる。補助金の仕組み上そうになっている。民間の路線バスの利用状況にも目を向けていただき、利用が低迷している場合は、何か対策を講じる必要がある。 |
| 事務局 | 地域の公共交通の位置付けであるバスの利用促進につきましては、コロナ禍の関係で、ここ2年間はできていませんでしたが、この8月から10月までの3ヵ月間を公共交通の利用促進月間として市民の方々に乗っていただけるように周知しています。また、駅等の市営の駐車場をパークアンドライドができるよう整備し利用促進を行っているところです。これから、JR関西本線の利用促進を沿線市町と共に行う予定でございます。それに併せまして路線バス等の利用促進につきましても行いたいと考えております。 |

| | |
|--------------|--|
| 委員 | <p>民間の路線バスに関して、県では、特に市町を跨ぐ幹線バスについて市町の協力を得て利用促進をして行く必要があると思っている。10月31日に伊賀地域の路線バスに関するワーキンググループを開催し、三重交通さんにも入っていただき、各市町とバス路線の利用状況等の情報共有を行ったところである。そのワーキンググループで利用状況の悪い2路線を利用促進対策路線に指定し、現在、利用促進の取り組みを行っている。</p> |
| 事務局 | <p>三重県さんの説明にありました利用促進対策路線に、三重交通さんの玉滝線と阿波線が指定されています。阿波線につきましては、2・3年前、利用率を上げていかなければならないということで、地域の方々と一緒に検討し、中学生の通学に路線バスを利用していただき利用率を上げて行くという取り組みを行っています。今後も、地域と共に利用促進の取り組みを行いたいと思っています。</p> |
| 委員 | <p>三重交通さんのバスロケーションシステムをスマホで使ったが、非常に便利が良く感動した。スマホで、バスロケや経路検索もできるので、そういったことを市民の方々に知っていただく機会をつくるということも大切ではないか。</p> |
| 委員 (三重交通) | <p>三重交通では小学生を対象に乗り方教室を実施している。また、一部の地域では、高齢者を対象に、ICカードの便利さやバリアフリー車両等を実感いただくために乗り方教室を実施している。今後も続けていければと思っている。</p> |

(終 了)